

学校紹介
新聞

古河市立 古河第二中学校



◆校長：落合 剛
◆生徒数：575人
◆創立：1958年
◆住所：古河市鴻巣780

各クラスが団結(だんけつ)して競(きそ)い合う体育祭



がんばっています！

自分たちでつくる体育祭

本校は全学年で協力しながら行う体育祭「ファミリンピック」を開催しています。近年は半日開催となりましたが、実行委員が何度も話し合ったり、各クラス協力して準備したりすることで、1日開催であった時と同じくらい充実した行事となっています。ファミリンピックの魅力として、生徒による生徒のためのプログラム作成があります。クラス対抗綱引きや全員リレーなど、その年ごとに生徒が種目内容を考え、競技運営まで生徒が中心となって行います。

一人一人がファミリンピックスローガンを胸に刻み、一丸となって活動する姿は、皆さんにとって忘れられない思い出となるはずです。

(3年 西川宙来、フィッシュンデン)



西川宙来



フィッシュンデン



こんな学校です！



新しいスローガンを考える生徒会

新たな伝統創り目標に

古河第二中学校は、創立66年を迎える古き良き伝統ある学校です。今年度は、575人という生徒数を誇り、古河市内でも規模の大きな学校です。校長先生と生徒会役員でランチミーティングなどを行い、学校スローガンを作成しました。



今年度の学校スローガンは「継往開来～INFINITY～」です。先輩方が繋いできた伝統を受け継ぎ、新たなことにも挑戦していく、生徒一人一人の無限の可能性

性を生かし、さらなる発展を目指していくという思いが込められています。

今まではコロナ禍で、さまざまな場面で制限がかかり、悔しく残念な思いをしたこともありましたが、学校スローガンのもと、思い出に残るような新たな企画、そして新たな伝統を創っていくことが生徒会の目標です。生徒一人一人の意見を取り入れ、誰もが楽しめる学校づくりを目指していきます。

(3年 高橋穂音)

リノベーション委員会の話し合い



生徒主体の活動

校則改正へ委員会設立



極山歩漣

本年度、古河二中では、リノベーション委員会という、校則改正などを目的とした委員会を設立しました。最初は「本当に校則を変えられるのか？」と考えていました。しかし、生徒会長や他の構成員の必死に活動している姿を見て、モチベーションが上がっています。



相良優里奈

生徒自ら校則について考え、変えていくというのは今までなく、緊張や不安を感じます。しかし、「より良い学校へ」という思いを持ち、学年という垣根を払い、協力を惜しまず活動することができています。

それぞれの意見や考えがこの学校の明るい未来になると思うと、この仕事を任せられたことを誇りに思います。一人一人がこの学校の代表という自覚を持ち、古河二中をより良くしていきます。

(2年 極山歩漣、相良優里奈)

わくわく 学校行事



吹奏楽部による演奏ステージ

個性披露できる文化祭



宮本大雅



吉田勇翔

「Let's Have Fun Singing～一生に一度の最高の思い出を～」のスローガンのもと、昨年10月に鴻の鳥祭が開かれました。各クラスの合唱コンクールや全校生徒で創作を行う「全校造形」が企画されました。

芸工グランプリでは、ダンスやお笑いなど個性あふれるパフォーマンスを披露。一人一人が個性を披露できる、学校全体で盛り上げられることが鴻の鳥祭の魅力です。

吹奏楽部のステージも、生徒になじみのある曲や、生徒を巻き込んだ体験型の演奏などで、いつも周りをわくわくさせてくれます。鴻の鳥祭は欠かせない行事の一つです。

(3年 宮本大雅、2年 吉田勇翔)

次回は6月7日 牛久市立牛久第一中学校です

内閣総理大臣賞は
誰の手に!?

自分らしく夢をかたちに...

第22回 全国こども陶芸展 in かさま

申し込み期間

2023年5月1日(月)～6月2日(金)

展示期間 2023年7月21日(金)～8月31日(木)

茨城県陶芸美術館 第2展示室・県民ギャラリー
※全応募作品を展示します。

作品募集
参加無料

主催:茨城新聞社 笠間市 笠間市教育委員会

共催:NHK水戸放送局 茨城県陶芸美術館 共同通信社

後援:文化庁 茨城県 茨城県教育委員会 茨城県立笠間陶芸大学校 笠間観光協会 茨城工芸会 笠間焼協同組合 笠間焼伝統工芸士会 笠間日動美術館 笠間工芸の丘 茨城放送 茨城新聞文化福祉事業団

協賛:常陽銀行 筑波銀行 水戸信用金庫 水戸証券 JA共済茨城 近畿日本ツーリスト水戸支店 月刊みと 橋本電炉工業 エバタコーポレーション

※新型コロナウイルス感染拡大状況により開催内容を変更させていただく場合があります。

詳しくはこちら▶

